

CLOSE UP!



周術期(手術時)における 口腔ケア(歯科治療)の重要性

医療関係者はもちろん、患者のみなさまも手術前後の口の中の衛生管理の大切さを再確認してください

手術前にキチンとした歯科治療を行うことは、早期退院、医療費削減、QOL(生活の質)の向上など、多くのメリットがあります。がんの場合はとくにその効果が高く、このたび改訂された「がん対策推進基本計画(2012年版)」においては、新たに歯科におけるがん治療での役割が明記されました。ここにその概要をご紹介します。

がん対策推進基本計画(2012年度版)で、 がん治療での歯科の役割を明記

ちょっと意外な気がするかもしれませんが、外科や内科などの診療各科と歯科治療は実に密接な関係があるので、今年からスタートした「改訂がん対策基本計画」で明記された歯科におけるがん治療での役割は以下のとおりです。

1. がん治療における副作用の予防や軽減に関して、口腔ケアを介して推進することにより、患者さんのQOL(生活の質)を向上させる。
2. 口腔機能、口腔衛生管理を行うことにより、手術による合併症予防や術後の早期回復をはかる。

3. がん医療に専門的にかかわる職種間の連携を進めるとともに、医療従事者の育成を行う。

つまり、まずは手術を控えたがん患者さんに、「周術期(手術時)口腔機能管理計画」を立てます。その後、患者さんの手術前、手術後における口腔機能・口腔衛生管理を行うことにより、手術後の感染症や誤嚥性肺炎(食物を誤って飲み込んだことによる肺炎)などの手術後の合併症を防ぎます。

そして、がん治療のチームの一員として、質の高い治療やケアを行える人材を育成することを目的としています。

■説明は、
徳島大学病院 歯科口腔外科(口腔内科)
東 雅之(あずままさゆき)教授



全身麻酔で手術を受ける、すべての患者さんにおける 「周術期口腔機能管理」の実際

口の内を清潔にすることにより、口の中のトラブルを未然に防ぐのが口腔ケアです。その第一の意義は、口腔機能・口腔環境を良好に維持することで感染源を減らし、誤嚥性肺炎などの合併症を予防することです。

そうした口中の環境改善によって入院日数が2~3割も短くなるといわれ、それは患者さんにとって心身の負担軽減はもとより医療費の削減にもつながります。

本院で手術を受ける患者さんの周術期口腔機能管理を行うときのパターンについて、その概要をまとめたものが右の図です。

本院の場合は大学病院という性格上、施設内で

口腔機能管理がトータルに可能になるという大きな利点があります。

まず、全身麻酔によって手術を受ける患者さんは、口腔管理センターを受診していただき、「周術期口腔機能管理計画書」を作成し、これをもとに本院の歯科診療部門あるいは連携歯科医院において治療に取り組みます。

そして入院後に手術前の口腔機能管理、手術後の口腔機能管理を行い、さらに適宜、ベッドサイドで口腔管理を行います。退院後も歯科診療部門や連携歯科医院で、引き続き口腔ケアを行います。

■周術期口腔機能管理の流れ(簡略図)

